

地上デジタル放送における視聴覚障害者向け放送の可能性

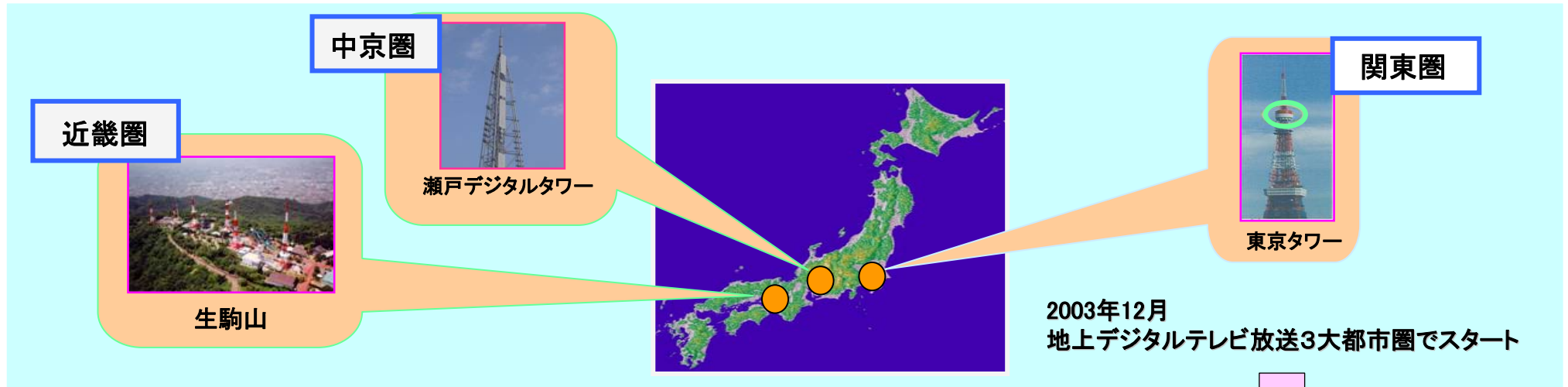


社団法人 地上デジタル放送推進協会

地上デジタル放送推進協会の概要

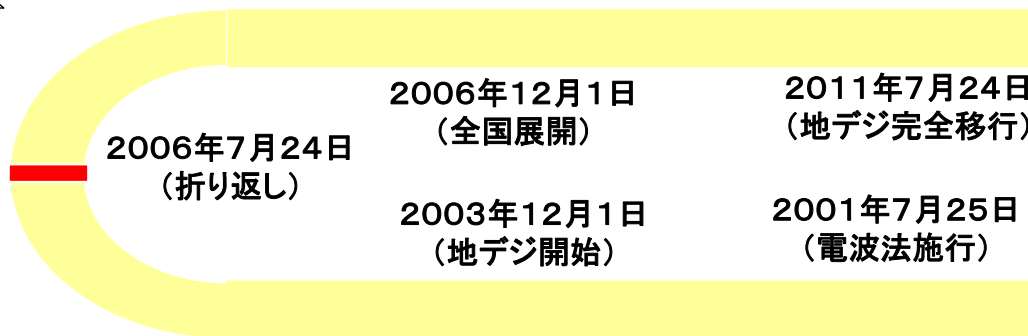
- 地上デジタル放送普及を推進する中核的な役割を担うため、2003年8月に設立
(略称:D-PA、<http://www.d-pa.org/>)
- 目的:
「普及促進」「エリア情報の提供」「地上デジタル放送の運用規定策定」「ESの運営」「RMP管理業務」
- 現在、地上デジタル放送に関わる放送事業者、メーカーなど219団体が加盟

地上デジタル放送の進歩状況



受け手側(国民・視聴者)の重要期

周知広報重要期



送り手側(放送局)の重要期

2006年8月現在 : 32都道府県でサービス開始
NHK27局 民放64社

2006年12月で : 47都道府県でサービス開始予定
NHK42局 民放128社(放送大学含む)

放送のデジタル化の目的

① 放送サービスの高度化

→ 高画質 高音質 高機能

② 電波の有効活用

③ IT戦略の柱

④ 電子産業の振興

放送サービス高度化の一例

■ 字幕放送機能搭載の必須化

→ 運用規定で「望ましい地上デジタルテレビジョン受像機」として字幕機能の搭載を必須化。

■ サーバー型放送

■ 音声サービスの多様化

→ ステレオ、5.1chサラウンド、副音声 etc

■ 災害時の情報提供

→ 災害時の情報提供を映像や音声、データ放送で

→ 緊急災害情報の提供(早期地震警報システム)

■ 情報提供手段の拡大

→ 固定受信

→ ワンセグ(携帯受信)

■ デジタル出力の活用

→ 点字パッド、音声変換 etc.

放送サービスの高度化のイメージ



データ放送やEPG



字幕放送サービス



音声の多様化・副音声



ハイビジョンや多チャンネル



携帯・移動体向けサービス



双方向サービス

携帯端末向けワンセグサービス

■ 携帯電話の機能と合致したサービス

当面は規定により固定受信放送とのサイマル



■ 放送から携帯端末へ 情報提供の連携

テレビによる浅い情報提供から通信による詳細・個別情報の提供へ

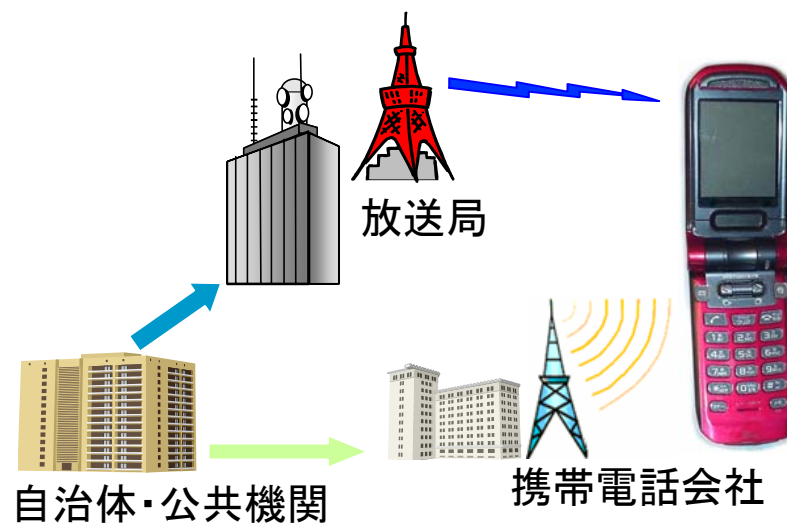
■ 携帯端末から放送へ

番組参加、視聴者からのレスポンス収集

■ 緊急災害情報受信機能

早期地震警報システムなどと連動
いざというとき、受信機を自動的に起動
いつでも、どこでもライフライン情報を受信

■ 携帯字幕機能



提供: NHK

携帯端末向けサービスのサービスモデル

- 日本の地上デジタル放送方式の特徴
- 2006年4月からサービス開始 順調な普及
- 通信連携機能を利用したさまざまなサービスが可能

放送から通信への連携

放送番組の視聴



放送番組を
携帯端末で受信し視聴

データ放送の視聴



放送波で
データ放送を受信
(帯域は限定)

携帯データオンライン



・映像・音声は**放送波**
・データは**インターネット**
から(帯域の制約なし)

ネットサイトへのリンク



全面
インターネット画面
(放送画面は消える)

災害時における放送と通信の連携によるサービスの例

①避難所 検索



GPSで現在位置取得(通)



最寄避難所を表示(放)



地図を表示(通)

②安否情報 入力



メニューから選択(放)



名前、〒、安否状態入力(放)



GPSで位置情報取得(通)



入力情報確認(放)



放送局に送信(通)

③安否情報 検索



調べる名前を入力(放)



検索結果表示(放)



安否情報概要を表示(放)



安否の詳細情報表示(通)

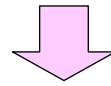
(放) 放送
(通) 通信

提供: NHK

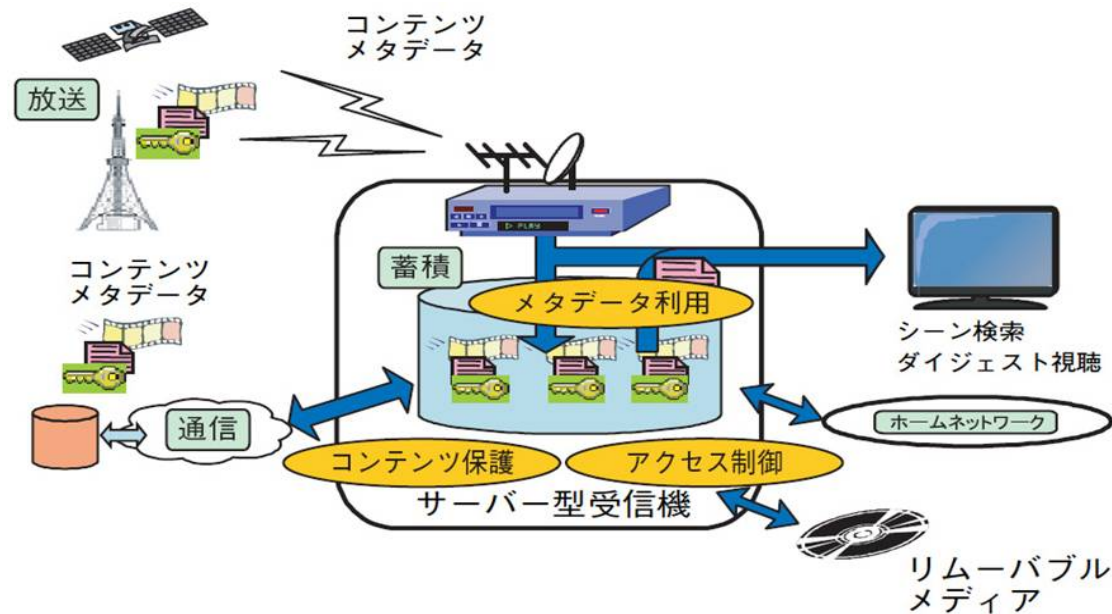
これからの放送サービス

ブロードバンド時代のサーバー型放送サービス

放送コンテンツの蓄積受信や、ブロードバンドとの連携による新しいサービス
-電波で送る映像・音声・データ放送に加え、ブロードバンド上の番組関連映像を利用



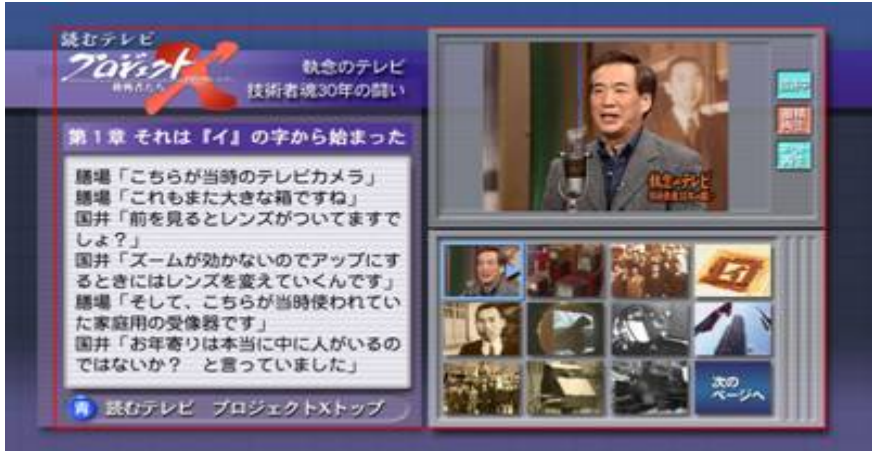
サービスの多様化を視聴覚障害者や高齢者支援に活用



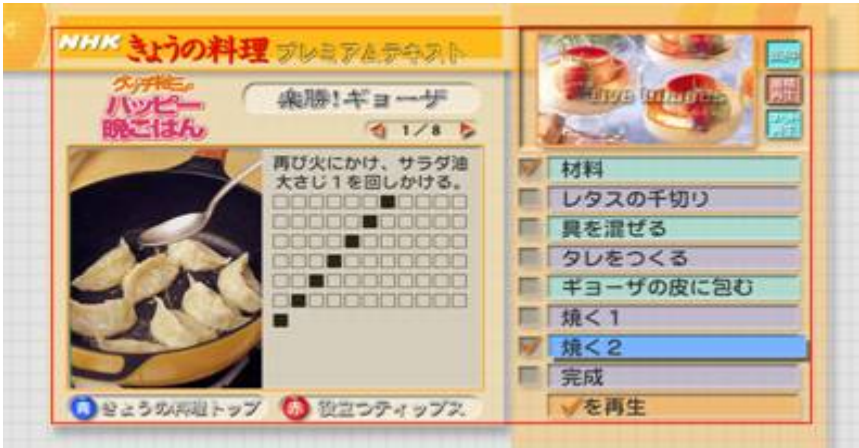
サーバー型放送の想定サービス例



「ダイジェスト視聴サービス」



「読むテレビ」



「プレミアムテキスト」
～動画レシピ集・映像百科事典～



「見逃し番組リクエスト」

※イメージ 2004技研公開より 提供:NHK